



## 食を通じて環境に優しい暮らしを築くために

「もったいない」の心を持って、食べ残しを減らしたり身近な地域でとれる農林水産物を積極的に活用する地産地消を進めるなど、食べ物の消費と生産の両面から、環境への配慮に取り組みました。

### 1 食生活における環境への配慮の徹底

#### りきまるくん、完食チャレンジ

愛知県小中学校長会（刈谷市立双葉小学校）

●実施時期：平成28年5月23日～6月3日    ●対象者：全学年の児童

##### ●内容

給食委員会で、本校の残食の実態を伝えると、「高学年は残さず食べているのに、そんなに残っているの！」と委員の子どもたちから驚きの声があがりました。

その後、「低・中学年の残食を減らせるような企画を立てたい」という声が上がリ、子どもたちの気付きやアイデアを生かした企画を、実行委員を中心に立てました。企画の話し合いでは「残食チェックは1種類がいいと思う」「再チャレンジあるといいな、2週間の企画にしたい」「1日完食でも努力賞をあげたい」等の声が上がりました。

その結果、低・中学年を対象にした子どもたちのアイデアを盛り込んで、主食の残食チェックを週間連続して行うことになりました。チェックカードも、完食シールが5枚そろると、楽しい絵が完成するものを作りました。

残食チェックでは、委員が応援する気持ちで毎日担当クラスに点検に訪れ、完食シールを貼りました。日に日にクラスの雰囲気も高まり、委員が点検に来るのを楽しみにしていました。

取組の結果、2週目には、完食を達成したクラスが大幅に増えました。

##### ●活動の成果、今後の課題

どのクラスにも残さず食べようと意識する雰囲気が生まれ、この実践が終わった後も「ご飯が残っているよ、食べられる人はいませんか」と声をかける子どもたちの姿が見られるようになり、実践の成果を感じました。

また、主食の残量が6.84%から5.48%と大幅に減少するなど、大きな成果がありました。さらに、このチャレンジの1か月後にも別の形で、完食チャレンジを行いました。



〈取組項目：環境に配慮した食生活の実践〉

〈取組場面：学校〉

## 愛知県ユネスコスクール交流会

愛知県教育委員会生涯学習課

●実施時期：平成 28 年 10 月 29 日

●対象者：日頃から ESD 活動に取り組む小学校、中学校、高等学校、大学及び特別支援学校

### ●内容

愛知県のユネスコスクールの支援と ESD（持続可能な開発のための教育）活動の広がりをおねらいとして、交流会を開催しました。

県内ユネスコスクール加盟校から参加した 20 校は、地域性や学校の特色等を生かした、人や社会、自然環境とのつながりを大切にする ESD 活動を発表しました。

分科会では稲作体験の取組の、ポスターセッションやワークショップでは発酵食品を文化継承のきっかけにする取組の紹介等があり、食生活と環境との関わりを学ぶ機会となりました。

### ●活動の成果、今後の課題

参加者は、環境学習、生物多様性、防災学習、地域連携など、現代社会の様々な課題に対して交流を深めることができました。

今後も ESD の視点から、全ての児童生徒が、食生活と環境との関わりについて学んでいける交流会にしていきたいと考えています。



〈取組項目：子どもに対する環境学習の推進〉

〈取組場面：学校〉

## 東海三県一市グリーン購入キャンペーン

愛知県、企業、環境配慮団体

●実施時期：平成 29 年 1 月 13 日～2 月 12 日

●対象者：県民

### ●内容

愛知県、岐阜県、三重県、名古屋市と、企業及び各種環境配慮団体とが連携して、必要性を十分に考慮した上で、環境負荷の少ない商品の購入をする「グリーン購入」を消費者に向けて啓発するためのキャンペーンを実施し、身近な消費行動を通して持続可能な社会の構築に寄与することを目指しました。

### ●活動の成果、今後の課題

平成 28 年度は 4,642 店舗が参加して消費者に対して「グリーン購入」を PR しました。

平成 28 年度に実施したアンケートによると、「グリーン購入」について、「このキャンペーンで知った」と回答した方が約 4 割を占め、「グリーン購入」の認知度を高めるきっかけになったと思われます。



〈取組項目：環境に配慮した食料品等の購入やリサイクル等の実践〉

〈取組場面：地域〉

## 2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進

### 羽布ダム水源地域交流フェスタ

愛知県農地計画課

●実施時期：平成28年10月10日～23日 ●対象者：県民

#### ●内容

平成28年10月10日（月・祝）から23日（日）に開催した『羽布ダム水源地域交流フェスタ（豊田市）』では、ウォーキング大会や羽布ダムの見学（操作室、堤体内部、小水力発電施設）、パネル展示等を行いました。約800の方が参加され、羽布ダムの役割や重要性について理解していただくことができました。

また、羽布ダム四季カードやPR動画の作成、水源地域の皆様方と連携して羽布ダムカレーの考案などを行いました。

#### ●活動の成果、今後の課題

参加者に対するアンケートでは、80%以上の方が羽布ダムの役割や重要性について“理解した”と回答されました。

今後、羽布ダム四季カードの配布やPR動画の発信、地元との連携により考案した羽布ダムカレーの販売を行っていくことで、多くの方に水源地域へ足を運んでいただき、地域の活性化を図っていきたいと考えています。



〈取組項目：農林水産業への関心と理解を深める取組の推進〉

〈取組場面：地域〉



## 「とよかわ農業市」の開催

豊川市

●実施時期：平成 28 年度（6 回開催）

●対象者：来園者

### ●内容

豊川市で生産される農作物や加工品の PR のため、赤塚山公園の駐車場の一部を会場として、生産者の直売によるトラック市を午前 9 時から 11 時までの 2 時間、開催しました。

開催時期によって 10 から 15 団体が出店し、各生産者は来場者に新鮮な豊川産農産物や加工品を対面で販売しました。

### ●活動の成果、今後の課題

開催日には多くの人々が来場し、豊川産農産物の PR の場を設けることができ、新規就農者の販路開拓の場にもなりました。

今後については、参画生産者の拡大・市民の認知度向上を進め事業のより一層の定着化を図り、いずれは生産者主体の運営にしていきたいと考えています。



〈取組項目：青年期以降における地産地消の実践〉

〈取組場面：地域〉

## 田んぼアート

あいち尾東農業協同組合、尾張旭市

●実施時期：通年

●対象者：市民他

### ●内容

尾張旭市では、農業を身近に感じてもらうこと、農地を保全することを目的として田んぼアートを実施しています。

平成 28 年 6 月 18 日にあいち尾東農業協同組合指導のもと、名古屋産業大学学生、尾張旭市職員等で田んぼアートの田植えを実施しました。

緑・黒・赤・白の 4 色の苗を使用し、「頑張る皆さんを応援」をテーマに、震災からの復興を目指す熊本県のキャラクター「くまモン」と尾張旭市イメージキャラクター「あさぴー」のイラストを描きました。

### ●活動の成果、今後の課題

市民の方や新聞・ホームページをみた全国の方に興味を持っていただき、農地や農業の大切さを啓発することができました。

また田植え、稲刈り作業を通じて、食の大切さや楽しさを伝えることができました。



〔 ©2010 熊本県くまモン#K22939 〕

〈取組項目：農林水産業への関心と理解を深める取組の推進〉

〈取組場面：地域〉



## 安城マルシェinテンパーク～笑顔新発見！食と農から健幸へ～開催

安城市

●実施時期：平成 29 年 1 月 28、29 日 ●対象者：市民他

### ●内容

地産地消の推進による健康的な食生活の実現の契機とするとともに、食と農に対する関心を高め、本市の農業の振興を図ることを目的とし、食べて遊んで笑顔になれるイベント「安城マルシェ」を開催しました。

生産者による野菜の産直市や食育推進団体による焼き芋の販売や五平餅づくり体験、ピザ窯職人が焼く地元野菜を使った本格ピザなど、地元のおいしいものが新発見できるイベントとなりました。

### ●活動の成果、今後の課題

来場者が 2 日間で 1 万人を超え、さまざまな年代の方に地産地消の推進、食育の普及・啓発ができました。



〈取組項目：直売所における生産者と消費者の交流〉

〈取組場面：地域〉

## JAあいち豊田稲作交流会 田植え、生きもの観察、稲刈り

生活協同組合コープあいち、あいち豊田農業協同組合

●実施時期：平成 28 年 5 月 22 日、7 月 10 日、10 月 2 日 ●対象者：県民、生協組合員

### ●内容

毎年、あいち豊田農業協同組合の豊田市高岡町の圃場で田植え、生きもの観察、稲刈りを行っています。農家の方の苦勞を知り、食べものの大切さを知る貴重な食育の機会となっています。また、生きもの観察会では、田んぼが生態系や環境に果たす大きな役割にも気づく機会ともなっています。

〈参加者の感想〉

「汗だくで初めて稲刈りをしました。」「お米を作るのがこんなに大変なんだなあ実感しました。」「これから、もっと感謝して食べたいなあと思います。」

### ●活動の成果、今後の課題

苗を植え、稲が育ち、観察し、稲を刈るプロセスに参加することで「ご飯が大好き」になります。また、田んぼが食料の生産だけでなく、多様な機能についても気付く良い機会になっています。



〈取組項目：農林水産業への関心と理解を深める取組の推進〉

〈取組場面：地域〉

## プチヴェールの収穫交流会

生活協同組合コープあいち、あいち尾東農業協同組合

●実施時期：平成 29 年 1 月 28 日

●対象者：県民、生協組合員

### ●内容

あいち尾東農業協同組合の水稲育苗施設及び近くの圃場で、プチヴェール収穫体験交流会を開催しました。

収穫体験では株の本葉の中の茎に生えるわき芽（プチヴェール）を摘んでいきました。結構力が必要で大変ですが、農協の方や生産者の皆さんに教えてもらいながら懸命に穫っていきました。

子どもも大人も夢中になって収穫し、30 分くらいで圃場の 120 株はほぼ穫り尽くしました。

プチヴェールは生産者の皆さんが湯がいてカップに小分けし、用意した 20 種類のドレッシングを好みでかけて食べました。みんな美味しいと大好評でした。参加者は 176 名でした。

〈参加者の感想〉

「とてもいいイベントです。子どもに食の大切さを教えることができ、子どもの記憶にもきっと残るにちがいません。野菜嫌いの克服にもいいですね。」

### ●活動の成果、今後の課題

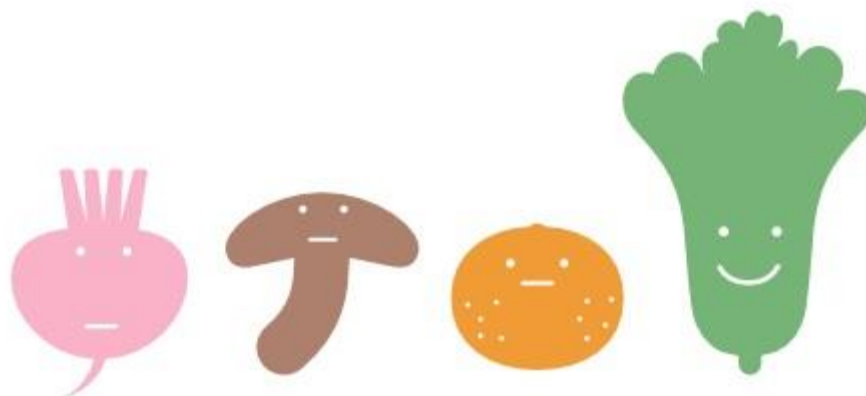
ケールと芽キャベツを掛け合わせた新野菜のプチヴェール、野菜嫌いの子どもがパクパク食べて親が驚く光景もありました。

収穫というプロセスに参加することが、「野菜大好き」につながるものが良くわかりました。



〈取組項目：農林水産業への関心と理解を深める取組の推進〉

〈取組場面：地域〉



### 3 農林水産業や食品産業における環境への配慮の徹底

#### エコフィードの利用を拡大するための研修会開催

東海地域飼料増産行動推進会議（事務局：東海農政局畜産課）

●実施時期：平成 28 年 11 月 16 日

●対象者：畜産農家、飼料製造業者等

##### ●内容

エコフィードとは、食品製造副産物、余剰食品等を利用した飼料のことです。畜産経営では、飼料の大半を輸入に頼っていますが、エコフィードの利用は輸入飼料の代替や食品廃棄物を減量化する手法として期待されています。

平成 28 年 11 月にエコフィードの利用拡大を目的として、東海地域飼料増産行動推進会議研修会が開催され、畜産農家や飼料製造業者等 50 名近くが参加し、エコフィードの活用事例や製造現場の現状を学びました。



##### ●活動の成果、今後の課題

愛知県は食料品製造業と畜産業が共に盛んであることから、エコフィードを活用しやすい地域と言えます。

しかし、腐敗し易いものや、塩分やアルコール分が高いものは、利用が十分には進んでいないため、エコフィードの利活用方法について、試験研究や普及啓発を続けていく必要があります。



〈取組項目：農林水産業における環境への配慮とバイオマスの利活用〉

〈取組場面：地域〉

#### 多量排出事業者における産業廃棄物処理計画書の作成

愛知県資源循環推進課

●実施時期：平成 28 年 6 月

●対象者：食品関連事業者

##### ●内容

産業廃棄物の年間発生量 1,000t 以上の事業場を設置している事業者は、多量排出事業者として、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画書を作成し、県知事等へ提出しなければならないとされています。

愛知県では産業廃棄物処理計画書の作成を指導し、事業者には廃棄物の排出抑制、再生利用、減量化に係る具体的な方法を検討させることで、食品廃棄物の削減を進めています。



##### ●活動の成果、今後の課題

産業廃棄物処理計画書について約 25 件の食品関連事業者から提出があり、廃棄物の排出抑制、再生利用減量化に係る方法について検討していただきました。また、食品廃棄物はその約 99.2%において減量化及び資源化が行われており、廃棄物の削減が進んでいます。

〈取組項目：食品関連事業者における食品廃棄物等の削減〉

〈取組場面：地域〉